



2021・10・1

第 420 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

自民新総裁も改憲に固執

総選挙で改憲に NO！の声を

9月29日自民党総裁選で、新総裁に岸田文雄氏が就任しました。看板は変わりましたが、新総裁も、総裁選最中から、安倍・菅政権が推し進めてきた悪政とくに9条破壊と改憲の踏襲を明言してきました。一方、自公政権の悪政を止めるため、市民に支えられた野党の共闘づくりも前進しています。来るべき総選挙では、改憲 NO！の声で改憲勢力の議席を大幅に減らし、改憲の息の根を止めましょう。

学術会議任命拒否と憲法

【東京都／台東区 台東九条の会】

台東九条の会が毎年行っている新春学習会は、時の情勢と取り組みの到達点を確かめ合い、決意を新たにすることもあります。

今年もいつものように小沢隆一さんをお呼びしていましたが、コロナ禍で会場が使えず二度も延期が続いて、8月22日に念願が叶いやっと実施することができました。33名の参加でした。

「学術会議任命拒否と日本国憲法」というテーマで講演していただきました。小沢隆一さんは学術会議の会員任命拒否問題の渦中の人であり、私たちも心配していましたが、「自分が学術会議会員任命拒否という、政府の憲法違反行為の当事者になると思

わなかった」と感想を述べられました。そして、菅政権の軍拡、コロナ対策など数々の憲法違反を指摘しながら、憲法改悪の狙いがその強権的な政治支配体制の確立にあることを明らかにし、私たちが日常の中から闘い続けることの大切さを指摘されました。

参加者の感想をいくつか紹介します。

○久しぶりに小沢さんのお話を聞くことができ、元気が出ました。

○小沢さんが日本学術会議の会員任命を拒否されたことは、私たちが日常行っている活動を頭から否定されたのと同じだと痛感しました。

○今度の総選挙は野党が一致して結束を固め、一大世論を作り上げていくことが重大と考えます。（*）

自民党総裁選で各候補、9条破壊、改憲を競う

自民党総裁選が行われ、連日マスメディアが大々的に報じましたが、その討論では、立候補している各候補が揃って、安倍・菅政権が強行してきた改憲、9条破壊政策の継承を訴えました。

明文改憲について、岸田文雄候補は、自民党の改憲4項目を「在任中実現すべく最善の努力をする」と明言、「少なくとも在任中に目処はつけたい」と発言を繰り返しました。安倍晋三氏の支持をうためるための発言と見られますが、任期中の改憲を最も明確に打ち出しました。改憲について最も積極的なのは高市早苗候補でしたが、「今の時代の要請に応えられる、日本人の手による新しい日本国憲法を制定するために力を尽くす」と宣言し、とくにコロナ禍を利用した緊急事態条項改憲を突破口にすることを強調しました。高市氏が、自民党政調会長に就任し、総選挙の政策づくりを行うため、改憲策動の活性化が必定です。河野太郎候補は改憲について「野党の理解を得られた項目から国民投票にかける」と発言し、立憲野党の分断を狙っています。明文改憲にとどまらず、実質的な9条破壊についても候補者たちは、防衛費の増額や安倍・菅政権の押し進めた「敵基地攻撃力」保有論を積極的に打ち上げました。高市氏は、中国、北朝鮮脅威論を振りかざして、防衛費の対GDP比2%、今の倍の10兆円に引き上げると主張し、岸田、河野氏も防衛費の増額に言及しました。また「敵基地攻撃力」保有については岸田氏が「有力な選択肢」として推進を表明、高市氏に至っては「敵基地を無力化するための法整備の必要」にまで言及しました。こうした議論を見ると、自公政権が続く限り改憲、9条破壊の路線が継承・推進されることは明らかです。

(*) 小沢さんの「学術会議任命拒否」を取り消させるためにも、台東の地から力強く「憲法九条を守れ！」の声を上げていく決意を固める学習会となりました。

(台東九条の会 齊當俊則)

「土地利用規制法」の問題点

【東京都小金井市／9条の会こがねい】

9条の会こがねいは、9月18日、池末彰郎弁護士(当会の代表)を講師に、「土地利用規制法の問題点と最近の情勢」のテーマで学習会を開催し、20名が参加しました。

講師の話 I、はじめに→ この法律は、自衛隊、米軍基地、インフラなど生活関連施設の周辺や国境離島の土地を調査し、また、その土地の利用を規制しようとする立法で、国会での審議もわずかである。運用の方針、対象の施設、区域、制限行為などの具体的な内容は、来年22年6月から政令と内閣府令で定められ9月には全面的に実施する。

II、主要な問題点→①内閣総理大臣が、自衛隊、米軍基地、原子力発電所など「重要施設」の敷地周辺おおむね1km内や国境離島等内にある区域を「注視区域」に指定し、調査できる。②立法を根拠づける事情や事実がない。③行政が法律を濫用するおそれがあり、基地反対運動、原発再稼働反対などの市民運動への抑制や圧迫につながる。

III、この法律の本質→軍事・国防最優先の政策に立つ立法であり、軍事、国防に公共性を認めない憲法の問題に反する。軍事、国防の必要による土地収用を認めずこれを削除した土地収用法の先例にも背反している。この立法は、戦前の「要塞地帯法」(立

入り、撮影、模写の禁止)と似るものと言える。

意見感想

○立法の必要性や根拠も明確でなく、区域の範囲や規制の内容も明示されないままの立法であり、その一方で違反に厳罰を科している。悪法の極みであり政権の責任を追及するべきだ。

○基地の周辺も居住や営業の場となっている状況では、いろんな面で私権の制限が生じ、生活と行動も圧迫されることになりそうで、影響は重大だ。

○この立法は、安倍・菅政権の軍事大国化路線の一環であり、重要視して運動を進める必要がある。

○軍事や国防を最重要視する政策では紛争や衝突は避けられない、対話と協調を軸とする国家間の協同組織の実現に向かうべきだ。

当会の紹介 結成は2005年11月、会員は現在約450名、総会は毎年10月or11月に開催。活動は、毎月→駅頭宣伝・署名、会報発行、国会前集会に参加、運営委員会議など。

随時→講演会・学習会、調査見学旅行、訪問署名活動、中央・地域の統一行動参加など。ただ、活動できる人の固定化、高齢化があり、会員総数の漸減が残念です。

(9条の会こがねい 萩原)

地元9条の会が共催で上映会を 【神奈川県藤沢市／江ノ電沿線9条の会】

私たちの『江ノ電沿線9条の会』は、大変小さな会で、世話人は7人とも女性だ。

でも自慢は、2013年から始めた憲法学習会が今月で59回目になることだ。

そんな会だが、十数年の経過で皆高齢化して遠出が難しい人も多くなってきていた。そこで、藤沢で上映した「2887」を地元の片瀬公民館で上映しようと企画を始めた。以前から交流のあった隣の『腰越憲法9条の会』に声掛けしてみたところ「是非一緒に」という返事をもらい、日程・会場取りは全てこちらでやった後、『大船9条の会』にも声掛けすることになった。近隣とはいえ三者共催は初めてのこと。コロナ禍の非常事態宣言下での開催になるため、チケットの枚数も極々少なくして、直接声掛けしてお誘いするなど準備にはとても気を遣った。日頃の会の活動もそれぞれ違いがあり、直接顔が見えない関係のまま進めていくことが一番の不安だった。

当日は藤沢市に「大雨警報」が発令され、会場の公民館が避難所になるかもしれないという事態に。でも「やろう！避難所の指示が出たら、その時点で終わればいい」と大勇断でやり始めた。大雨を警戒した高齢者のドタキャンが30名。実際に入場された51名は、ソーシャルディスタンスがとれて安心な座席配置になった。参加者の中にこんな方がいた。「僕は安倍が大嫌いだから途中で逃げたくなるかも」と端っこの席に。でも引きつける何かがあったのだろう、最後まで観て帰られた。サプライズで河野監督が来て下さって、映画誕生の秘話を話してくださり、皆さん満足して、傘無しで帰路についた。

小さな会でも多くの方に満足していただける企画が出来たことは、また一つ私たち

の誇りになった。

(江ノ電沿線9条の会 折原美知子)

中国問題で講演会を開く

【愛知県／「九条の会」愛知・大学人の会】

昨年春以来のコロナ禍のもとで、「九条の会」愛知・大学人の会としての独自企画を久しく開催することができませんでしたが、ようやく9月19日(日)に「中国の未来を揺るがす「捻れ」の力学 経済の成長と個人一党独裁(経済と政治の捻れ)」と題するZoom利用による講演会を開催できました。講師は愛知大学名誉教授で、アジア経済研究所名誉研究員でもある加々美光行さんでした。

Zoomでは参加者数は限られるかと予想したのですが、申し込みは事務局も合わせて50名、当日の実参加者は43名となりました。「九条の会」や「安保関連法に反対する学者の会」などに宣伝をお願いした効果で、福島、横浜、長野、京都、沖縄などからの参加があったことはオンラインの利点ですが、中国問題に対する関心の高さもうかがわれるかと思えます。

講演では、中国の経済的発展の現状とアメリカをも追い越す近未来予測に対して、政治の「遅れ」が対比されました。社会主義政党としては思想の形骸化が進行していること、入党が中国社会全般におけるヒエラルヒーを駆け上げるための有力な登竜門となった時に党のマンモス化への道が一気に開かれ、党自体が末端まで利権化していたこと、その克服のための「党政分離」が実現できなかったことなどが指摘されました。

質疑応答も合わせて2時間半の予定を超える充実した催しとなり、参加者からの好評も届いています。

(「九条の会」愛知・大学人の会 足立英郎)

「第4回ベートーヴェンを聴く会」をやりました

【東京都東村山市／ふじみ九条の会】

「ふじみ九条の会」では活動として、「ニュース」(A4裏表)を毎月3日に発行すると、第3日曜日に年10回(1月と8月は休み)学習会を行っています。専門家の話を聞いたり、DVDをみて意見交換をするなどしています。年に一度くらいは息抜きになるようなことを、ということで夏休み明けの9月に「ベートーヴェンを聴く会」をやるようになりました。

私はベートーヴェンが大好きなので、このような会であれば他の世話人に負担をかけないという理由もあります。プログラム作成・CDと再生装置の持ち込み・配布資料の準備・当日の機械操作・解説とは言えない話などすべて独断で行っています。

参加者は普段は地元九条の会のメンバーが主ですが、「聴く会」の参加者は図書館などのポスターを見たり、「九条の会」のサイトをみて来てくださる人などで様々です。今年はコロナで自分の想定より少なく24名の参加がありました。

準備では選曲が悩みますが一番の楽しみです。一回に聴く時間が長くても10分程度の曲(楽章)を選びます。あまり有名ではないが、心にしみる名曲(自分の好み)は欠かせません。今年は弦楽四重奏曲 第6番 Op. 18の第2楽章を取り上げました。毎回プ

ログラムに入れているのは聴き比べです。今回は「悲愴ソナタ」の第2楽章をグレン・グールド（4分43秒）とクラウディオ・アラウ（6分18秒）で聴き比べました。また初めて番外編として、澤地久枝さんがミッドウェー海域に追悼に行かれた時、船上で流していた曲の一つR・シュトラウス作曲ジェシー・ノーマンの歌う「4つの最後の歌」から3曲目「眠りにつくとき」をかけました。

その他全部で6プログラム、聴く6割、話4割、休憩を入れて2時間10分です。

（ふじみ九条の会 宮本芳夫）

映画「2887」上映会を企画して

【東京都江戸川区／九条の会・葛西】

九条の会・葛西は、安倍政権の2887日を検証する映画「2887」上映会を9月4、5日と連日地元の公共施設で行いました。コロナ対策をして、3密に注意しての実施で、集会室は満席。劇場一般公開に先立っての上映で期待もあり、地元江戸川でよく上映会を企画してくれたと鑑賞後の感想にも書かれていました。また、「安倍政治」を忘れず、許さないでいきたいと気持ちを新たにしました。工夫に満ちたユニークな映像。この映画を一人でも多くの人に、特に若い人に見てもらいたい。最後に、安倍政権のあまりのひどさと、未来に希望が持てない、あきらめの気持ちから子どもを産む選択をしなかった女性は、問題点が分かりやすい良い映画で、9条を守り抜かないと、そして子供を産みたいと思える社会を取り戻したいと記してくれました。

今後、この映画「2887」は9月11日か

ら劇場一般公開されるが、一人でも多くの人に見てほしい映画です。また、各地で自主上映にも取り組んでほしいと思います。

（九条の会・葛西 涌井純子）

「九条の会」在庫品のお知らせ

I ポスター 各3枚100円（送料別）

新しい順に①～④

①



②



③



④



II リーフレット 「憲法9条、明日をつむぐ」

1枚30円（100部以上25円/1000部以上20円）

（お申し込みは、九条の会へ）